

## 屋久島生態系モニタリング

### 登山届の分析による登山者の動向一下

登山者がどの地域に入山しているかをみると、現在最も利用されているのは、縄文杉で1994年が67.1%(4,762人)、95年は71.8%(7,751人)、96年が73.6%(4,153人)で、次第に縄文杉への利用が集中する傾向がみられる。

一方、以前の登山の中心目的地であった宮之浦岳は、93年には登山者の71.9%が利用していたが、94年には63.6%(4,508人)、95年には58.1%(4,501人)、96年には49.3%(2,049人)と相対的に比率を落としている。また、花之江河は94年に35.6%、95年に45.0%と増加していたが、96年には31.4%と登山者の比率は減少している。

近年の登山者数の増加は、縄文杉への集中を伴いながら推移してきたことが分かる。

森林生態系保護地域は、屋久島の国有林のうち原生的な天然林を保存することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究等に資することを目的としています。



調査・研究が集中する西部地域

気汚染の実態調査等多くの研究者により、貴重な調査研究が行われました。これらの結果から、屋久島の自然環境の現状や変化を把握し、生態系の変化に対する影響を評価し、保全策が確立され

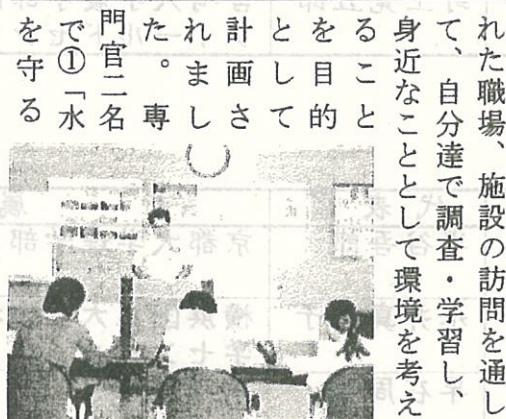
## 屋久島国有林は重要な研究フィールド

◆屋久島森林生態系保護地域における学術調査状況◆  
屋久島は、海岸から高山まで多様性に富んだ多くの生物相を有しており、従来から多くの研究者の生物・生態研究などの重要なフィールドとなっています。

屋久島は、海岸から高山まで多様性に富んだ多くの生物相を有しており、従来から多くの研究者の生物・生態研究などの重要なフィールドとなっています。

## 環境校外学習で中学生が当センターを訪問!!

六月八日、当保全センターへ永田中学校の生徒二名と先生が環境校外学習で来所されました。



この校外学習は、学校を離れた職場、施設の訪問を通して、自分達で調査・学習し、身近なことからして環境を考慮することを目的として計画されました。専門官二名で①「水を守る

## 屋久島の植物



ツクバネソウ  
ゆり科

全国に分布し、深山に生育する多年草。茎は20cmほどで直立し、茎の上に楕円形の葉が四枚輪生する。黄緑色の花が一個上向きに咲く。名は、果実が球形で、姿が羽根突き（ツクバネ）の羽根に似ていることによる。  
花期五〜六月。果期七月。

## 「しゃらの大杉」倒木更新中!

白谷雲水峡楠川歩道沿いの楠川前岳北西斜面に立っていた「しゃらの大杉」が、平成七年の台風十三号で七m程で折れました。

六年経った現在、落下の衝撃で砕けた幹の上に、次世代の杉が一m程の高さに生長しています。倒木更新の始まりで、千年単位の出来事とするなら世代交代の劇的な瞬間と言えるでしょう。

「しゃらの大杉」が倒れギャップが生じたことにより、芽生えた幼木が陽の光で生長すること、次の世代が育ち、森林生態系を破壊することなく将来の森の姿を創って行く姿の始まりです。

幼木は、白谷雲水峡の森で、千六百年の間君臨し続けた「しゃらの大杉」の後継樹として、千年・二千年と長生きして貰いたいものです。

## お知らせ

### 楠川歩道に倒木迂回路設置

白谷雲水峡を縦断する楠川歩道(さつき吊橋から下方へ約八百m地点)にツガの大木(胸高直径六十cm)が強風で倒れ、通行不能となっています。

応急措置として、斜面上方への迂回路を設置していますが、足場が悪いため通行される際には十分注意して下さい。

御迷惑をお掛けしてはいますが、近く当保全センターで撤去する予定です。

今回、確認した倒木更新は、



## 屋久島森林生態系保護地域などにおける学術調査等の入林状況

(平成12年12月1日～平成13年6月30日)

### 1 植物関係

目的	代表者	所属	地域	備考
植物生態学的研究のための予備調査	辻野亮	京都大学理学部	1～4林班	
ヤクタネゴヨウの生体木調査	手塚賢至	屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊	3. 4. 5. 10. 47. 48. 66林班	
モミの遺伝的多様性を明らかにするための調査	高橋陽子	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	81林班	
屋久島産ユリ科植物の種生物学的研究	田村実	大阪市立大学大学院理学研究科・理学部附属植物園	18. 19. 22. 82. 83. 84. 85. 92. 93. 94. 97. 230林班	
植物生態学的研究	辻野亮	京都大学理学部	2林班	
屋久島の照葉樹林の種多様性の実態とその保全に関する生態学的研究	石田弘明	兵庫県立姫路工業大学自然・環境科学研究所	204林班	
定点観測地におけるフェノロジー調査・植生調査	大沢雅彦	東京大学・院・新領域創成科学	2. 204林班	
生態学の研究(光合成の季節変化, 葉のフェノロジー, 果実数など)	野間直彦	滋賀県立大学環境科学部	1～4. 9～16. 74～80林班	
種子散布の調査(ヤクシマザルの糞採集)	Peter Winn Brown	サセックス大学	1～4. 250～260林班	
ヤマモモの果実調査	寺村丈寿	京都大学・生態学研究センター	2林班	
天然林の純一次生産速度推定	相場慎一郎	鹿児島大学理学部	2. 76. 81. 204林班	
屋久島の蘚苔類相を明らかにするとともに, 蘚苔植物の種分化機構解明のための試料の収集	出口博則	広島大学大学院理学研究科	島内全域	
ヤクシマサルスベリの挿し穂の採集および個体数調査	野上寛五郎	宮崎大学農学部附属フィールドセンター	2～4林班	
アジサイ属ヤクシマアジサイとコガクウツギの採集	戸坂芳朗	東京都立大学大学院理学研究科	白谷・宮之浦・安房湯泊・大川林道	
ヤクシマサルスベリの種, 挿し穂及び遺伝子分析用の葉の採集	野上寛五郎	宮崎大学農学部附属フィールドセンター	2～4林班	

### 2 動物関係

目的	代表者	所属	地域	備考
ニホンザルと森林の相互作用に関する研究	半谷吾郎	京都大学理学部	9. 14林班	
シカの食性調査	永井真紀子	横浜国立大学環境科学センター	永田・花山歩道 大川・西部林道	
野生ニホンザルの社会・生態学的研究	早石周平	京都大学	1～4林班	
ヤクザルの行動観察	堀内史朗	京都大学理学研究科	1～4林班	
ヤクザルの行動観察	RAFFAELLA VENTURA	アベルティー・ダンディー大学	1～4林班	

### 3 その他

目的	代表者	所属	地域	備考
酸性雨調査	永淵修	福岡県保健環境研究所	3. 61. 97林班	